

辰巳小次郎 たじま せつぞう 哲學者。安政六年(1859)江戶生れ、昭和四年四月二十日歿(一八五九—一九二九)。舊姓松田、初名松田小一郎、辰巳小一郎。號ちりゆや、産の舍くさるふ、産の舍の主人、産廬、産廬迂生等。

著譯書 『哲學茶話』 (産の舍くさるふ名、明治二十年五月哲學書院)、
『日本通鑑』 (共著、卷之一・明治二十年八月、卷之二・十月、卷之三・二十一年一月、卷之四・二十一年一月二十日、卷之五・七月二十日、卷之六・十五日、卷之七・二十二年七月、二十日棚橋一郎刊、哲學書院)、
バツクル著 『文明明史論』 (譯述批評・増補、明治二十年十月月刊、哲學書院)、
『雄辯大家實地演說筆記』 (辰巳小一郎名、合著・内山龜太郎編、明治二十一年一月京都・改進黨書店)、
『觀櫻館演說筆記』 (大同國創立の主意) (大内青巖合著、明治二十二年一月兒玉合見編刊、明教社・鴻盤社)、
『政談演說』 (内題「政談演說集」合著、明治二十二年九月九日岡田重敏編刊)、
『萬國史要』 (小川銀次郎共著、明治二十六年十一月二十一日金港堂書籍株式會社)、
『ブロンデル著』 (獨逸商工勃興史) (譯、文部省編、明治二十四年一月十六日金港堂書籍株式會社)、
『FIRST STAGE ENGLISH』 (明治四十二年七月、二十五年月刊、工手學校同窓會)、
『老人言語』 (産廬名、昭和二年七月、二十五年刊) 等。